

日本学術会議第24期史学委員会
歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会
第1回議事要旨

1. 日時 平成30(2018)年3月13日(火) 10時00分～12時00分
2. 会場 日本学術会議 5-A(1) 会議室
3. 出席者 青木睦、大友一雄、倉員正江、栗田禎子、久留島典子、佐野正博、高埜利彦、芳賀満、柳原敏昭、吉川真司、若尾政希
4. 議題

(1) 役員を選出

出席委員の自己紹介の後、次のように役員を選出した。

委員長 若尾政希、副委員長 高埜利彦、幹事 大友一雄・柳原敏昭

(2) 今期の本分科会の課題

1. 本分科会の設置目的を確認

「(1)すでに歴史資料として認識されている古文書などの保存・管理・公開の問題点を十分に検討するとともに、これとあわせて(2)将来の歴史資料となる現用文書も含めた保存・管理・公開に関して、いま何が問題となっているのか、を検討」すること。「くわえて、(3)日本学術会議自体のアーカイブズについても、整理し、その保存・管理・公開に向けて提言」することが、本分科会の設置目的であることを確認した。

2. アーカイブズ制度を改善するために

アーカイブズ制度を改善するために、本分科会において何ができるかについて議論した。その結果、まずは①国立公文書館が作成した平成29年(2017年)12月版「アーキビストの職務基準書」を検討するところから、アーキビスト資格認定についての本格的な議論を開始する、②「公文書館法」の附則2項の「当分の間、地方公共団体が設置する公文書館には、第4条第2項の専門職員を置かないことができる」を撤廃して公文書館にアーキビストを配置するように法改正を求める提言を発出するための議論を開始することになった(平成20(2008)年提言「公文書館法とアーキビスト養成」参照)。

3. 第23回史料保存利用問題シンポジウムの開催について

日本歴史学協会との共同主催で、「自治体アーカイブズの現状と公文書管理制度」というテーマで公開シンポジウムを開催することにした。

日時：平成30年6月23日(土) 13:30～17:30

場所：駒澤大学駒沢キャンパス

(3) 「日本学術会議資料」について

高埜委員より、配付資料「「日本学術会議資料」について」に基づいて、「日本学術会議資料」の整理についての経緯と進捗状況が説明された。現在、日本学術会議図書館地下書庫にある「日本学術会議資料」は、戦後、日本学術会議が設

立された時から第 15 期までのアーカイブズで、非常に貴重な歴史資料である。そのクリーニングの作業、整理と目録の作成を、日本学術振興会科学研究費補助金の交付を受けて進めているという説明を受けて、今後の進め方について議論した。また、第 16 期から現在に至るまでの日本学術会議アーカイブズ（デジタルデータも含む）についても、現況を調査し、同様に保存・整理していく必要があることについても確認した。

（4）その他

- ・史学委員会に関連する諸行事を、出席委員に知らせるメーリングリストへの登録につき、説明があり、承認された。
- ・次回の日程 6 月 23 日の公開シンポジウム終了後（17：30～19：30）に、第 2 回の分科会を開催することにした（駒澤大学駒沢キャンパス本部棟会議室）。